

2022年9月10日

令和3年度証券経済学会年報 優秀論文賞

受賞論文：太田浩司・向真央「女性役員が負債コストに与える影響の実証研究」
年報第56号掲載

証券経済学会年報編集委員会
委員長 鈴木健嗣

選考にあたり、以下の基準で審査を行った。

- ・研究論文として独創性・先駆性があるか
- ・研究方法が適切になされているか
- ・研究論文の学術的価値・社会的なインパクトがあるか

受賞作は、以上の点すべてを高い水準で満たしており、令和3年度証券経済学会年報優秀論文賞にふさわしいとの結論に達した。

太田・向論文は、日本の女性役員が負債コストへ及ぼす影響を検証している。ジェンダーギャップは世界的に高い関心がある。日本のジェンダーギャップが極めて深刻であり、日本企業の女性役員比率は非常に低い状況にある。こうした状況を改善するべく官民がさまざまな取り組みが行われている。本稿は女性役員が企業の経済活動へ及ぼす影響を検証しようと試みたチャレンジングな論文といえる。本稿の結果は、多くの諸外国における研究とは異なり、日本の女性役員は負債コストを引き下げるインパクトをもたらしていないことを明らかにしている。この結果からは、日本の女性役員は、依然としてトークンの地位に留まっており、女性役員の役割が十分に発揮できていない可能性を示唆している。この研究結果は、社会的インパクトが非常に高いと評価できる。また、因果関係を紐解くため Difference in Difference テストを適切に行うなど検証方法に対する評価が高かった。